

野菜洗浄機シェア国内トップ

イケメン後継者の未来戦略

細田工業株式会社

取締役 細田 新介氏

2017年度の訪中団（平湖）に初参加。多くの経営者の生き方や中国の実状に触発され翌年の訪中団には訪中委員として企画から取り組んだ細田新介さん。父が社長を務める細田工業株式会社で営業職、製造職の経験を経て日々社員とともに歩まれ7年。細田工業(株)は国内トップのシェアを誇る野菜自動洗浄機などの食品加工に関する機械製造で業界をリードしています。その強みと今後の展開をインタビューしました。



細田工業とは？

国内トップシェアを誇る「加工野菜の自動洗浄機」と国内シェア2トップの「もやしの自動洗浄ライン」「茹で麺製造ライン」の三つが主力です。それぞれを本社工場、松原工場、八尾曙工場で分担して製造しています。各工場には開発設計部署があります。販売先はコンビニ、食品スーパー、外食チェーンの工場が主です。

トップクラスのシェアということですが、その強みは？

365日24時間体制のメンテナンスだと思えます。このスピードは他社には絶対に負けません。これができることにより、顧客フォローが進みます。顧客の要望や悩みを直接聞くことができますし、当社の機械の改善点が見えてきます。それらはすぐに、開発や設計部署にフィードバックされ、新たな提案や改善を生みます。この繰り返しで、顧客と細田の信頼関係を構築しています。また、食品加工機械は用途ゆえに汚れます。それを清掃しなければなりません。そうすると構造がシンプルであればあるほど清潔さを保つことができるので、シンプルな設計を心がけています。

社内の雰囲気がいい秘訣は？

社員にやりがいを持って働いてもらうために、福利厚生には力を入れています。誕生日休暇、永年報奨、同好会活動（釣り、キャンプ、スキー、カメラ）などです。社員食堂は大きな窓で開放的で明るいものです。朝礼もそこで行いますが、社員に安らぎの時間と空間を提供できていると思います。社員同士の

ちょっとした飲み会も奨励しています。私もよく社員と積極的に時間を作っています。

今後の展開は？

国内では労働力不足から、自動化、省力化、無人化の要求が進みます。機械が自らを洗浄する機械を作ることも課題です。また、生活者の食への安全性や信頼性の意識がますます高まります。細田工業の培った開発力、設計力で顧客や生活者に応えていくつもりです。

海外の大きな市場も魅力です。訪中団の中国視察で「中国は安かろう、悪かろう」という印象は吹っ飛びました。平湖で視察した食品加工会社は清潔でした。特許などで類似品対策や図面管理のセキュリティを強固にして海外市場もめざまします。東京で展示会に出展したのですが、外国人（特に東南アジアの方々）が多く来場されています。開発力と設計力の優れた細田ブランドを売り込むチャンスだと思っています。特にベトナムは食欲旺盛な若者が多く、何より野菜をよく食べる文化があります。ぜひ挑戦していきたいと思っています。

取材を終えて

私はグループ討論で平野支部の重鎮、細田社長と一緒になったことがあります。その時に細田社長の人事制度の緻密さと論理的な経営方針に圧倒された経験を思い出しました。その教訓を直接受けておられる細田さんの更なる活躍は間違いのないと感じる取材でした。

まとめ 大山印刷(株) 大山 武久